

三光産業株式会社

吸引用ベルト交換方式コンベアを活用した画期的なバリ取り機の開発

傷を付けない丁寧仕上げ

板金加工の工程で金属に穴を開けたり、切断したりする際に発生する突起やギザギザを「バリ」という。このバリを除去するバリ取り作業は製品の精度や外観、安全性を確保する上で欠かせない。

板金加工の三光産業が2019年1月に発売した自動バリ取り機「コンパクトバートル」は、板金メーカーの知恵と経験をつぎ込んだ最新鋭機だ。バリ取り機は回転するサンドペーパー製のブラシを加工物

に当ててバリを

た。続くコンパクトバートルはサンドペーパーを回転方向に対して30度ひねって植えてある。これによりバリを確実に取り除きながらも加工物表面に傷を付けず、めつき加工もはがれないようにした。

COMPANY OVERVIEW

■三光産業株式会社

実施場所：越生町越生東 3-11-2

本社：越生町越生東 3-11-2

代表者：代表取締役社長 堀武美

設立：1947年 3月 資本金：2000万円 従業員数：150人

電話：049(292) 3232

モ▶電気自動車の充電器は板金設計から筐体製造まで、大型消火器や業務用給湯器は組み立てて完成品を納品。近年は通信関連の電源装置が最大の売り上げを占める。



加工物に傷を付けず、設置スペースも従来品の3分の1で済むコンパクトバートル

除去するが、外国製はブラシの消費量が非常に大きい。「板金屋なんだからバリ取り機もわが社で作ろう」と同社が08年4月に発売した先行機のバートルはサンドペーパーを軸に対し20度傾斜して植え、ブラシの消費量を半分にし

加工物はベルトコンベアにエアで吸着固定するが、吸入孔のピッチ間隔が合わないという。このためベルトは加工物のサイズに合わせて交換しなければならぬが、コンパクトバートルの吸入孔は複数のパターンのピッチ間隔で開いているため、ベルトを交換する必要がないのもメリットだ。コンパクトという名前の通り、集塵機も含めた設置スペースはバートルの3分の1で済む。さらにバートルは本体左

側に集塵機を置く構造になっているのに対し、新型機は左右どちらにも設置できる。コロナ禍で製造各社の設備投資は伸び悩んでいるが、シニアスタッフの池田正夫氏は「ものを作ればバリが出るし、バリ取りは不可欠。人手が足りなくなればきつと活躍の場は広がる」と自信を見せる。